

書評

永田和宏・他 編

分子生物学・免疫学キーワード辞典

粕川 禮司 (福島県立医科大学第2内科)

この度「分子生物学・免疫学キーワード辞典」が永田和宏、長野敬、宮坂信之、宮坂昌之氏の編集により、医学書院から出版された。

分子生物学・遺伝子工学、細胞生物学・免疫学で用いられる重要な言葉がキーワードとして選ばれ、1,600語が専門家200余名の執筆によって、わかりやすく解説されている。

遺伝子や免疫に関する言葉は膨大であり、また、日々数が増している。臨床に追われる医師にとっては、言葉の正しい意味がわからないままに論文を読んだり、研究発表したり、教えたりしなければならない。このような時に、正しい道しるべとなるハンディな本として本書が上梓されたことはまことに時宜を得たものである。

本書の特徴は、難解な遺伝子・免疫用語が図解入りでわかりやすく解説され、表を用いて整理分類され、さらに、実験手技の用語については、実験をしたことがない人にもわかるように実験手技の手順が図入りでわかりやすく説明されていることである。

MHCクラスI、II、IIIの遺伝子座、抗原提示細胞の抗原プロセッシング機序、T細胞レセプターの構造と機能、B細胞の分化と機能、CD分子の分類と機能、免疫グロブリンの構造と機能などの説明は図入りでわかりやすく解説されていて、本書の最も大きな特色となっている。Fcレセプター、オンコジーン、

癌抑制遺伝子、サイトカイン、コロニー刺激因子、CD分子、スーパー抗原、接着分子、制限酵素などについては表が作られ、分類と特徴が良く整理されている。cDNAライブラリー作製法、ゲルシフト法、ゲノムクローニング、サザンブロット法などの実験手技は一度も操作したことのない素人にもわかるようにその手順が図解されていることは臨場感をもって理解することができ、大変ありがたい。

aggretope, CAT assay, 分子シャペロンなどの新しい言葉の解説があり、affinity と avidity の違いの説明、RPMI 1640 の言葉の由来や AIDS 発見の経緯など、単なる辞典以上の読み物としても魅力ある書となっている。

遺伝子工学や免疫学では言葉の相互関連や事象のネットワークがある。そのため、同意語の違った言葉や用語の解説の中に他の用語が入り込むことが多い。本書は、その点を他項参照などの印を示していいねいに編集している。また、末尾に英語索引があるのも本書を利用しやすくしている。

臨床医が論文を読んだり、書いたり、あるいは研究を発表する時に、言葉の意味を正しく理解し、正しい言葉は何かをチェックするのに、本書は大いに利用されよう。

(A5 頁528 7,725円(税込) 1994 医学書院刊)

お知らせ

第13回中部日本手の外科研究会

日時：1996年(平成8年)1月27日(土)

場所：山口グランドホテル

山口県吉敷郡小郡町(新幹線小郡駅前)

シンポジウム：

- 1) 手根管症候群の手術的治療—従来法と鏡視下手術の比較
- 2) マイクロサージャリー手術後のリハビリ

テーション

主 題：手の外科生体材料の使用状況と試み
特別講演：

- 1) James CY Chow, MD (Illinois, USA)
- 2) Lam Chuan Teoh, MD (Singapore)

第13回中部手の外科研究会

会長 土井一輝(山口大学医学部整形外科)